

自 彊 会 だ じ り

変 わ ら ん ぬ 伝 統 と 文 化

今 も

第27号



令和へと続く伝統の大家族主義。

それぞれの花を咲かせるために。



創立百周年に向けて一層のご協力を



同窓会会長 和田直樹 (高28回)

平成25年の12月から会長を務められてきた竹内信六会長(高13回)がご家庭の事情で会長職をご退任され、後を任されることになりました。高校28回の和田直樹と申します。還暦を越えてはおりますが歴代会長と比べるとあまりにも若輩者です。今春卒業の71回生を含めると3万3千人に垂んとする会員数を誇る自彊会。令和という新しい時代にその代表を務めることは、身が引き締まる思いがします。会員の皆様のご指導とご協力を仰ぎながら精一杯努めさせていただきまますので、何卒よろしくお願ひします。

思い起こせばまだ紅顔の美少年(ホンマか?)であった明高入学時が創立50周年であったと覚えています。そして、総合選抜入試が始まり、美術科が設置されました。又、複数志願制への移行、学区の変更が行われた平成の時代が終わわり、令和が始まりそして終わ

る。そうやって歴史は連綿と続いていくのでしよう。

その中で大正12年の明石中学創立以来変わらないもの、それは荷山町のあのキャンパスの空気でありグラウンドから見る沈む夕日の景色であり、初代山内校長の提唱された「自彊不息」の建学の精神であり「自治・協同・創造」の校訓、そしてそれらに3年間抱かれて卒業した者が持つ「明高魂」とでも言える心のありようではないでしょうか。

あと4年、令和5年に母校は創立百周年を迎えます。そんな時代に私が同窓会の会長を仰せつかった必然が少しでもあるとすれば、同窓会を支えてくださっている我々より上の世代のように、我々や我々の下の若い世代も一緒に家族主義の元で百周年を祝う事が出来るよう汗をかきことだと思っ

ています。それには大事なことが…。近年自彊会の年会費が3千円に値上

げされました。足りないからです。卒業生3万余人、この自彊会だよりを送っている方だけでも2万数千人。で、年会費納入者が年間1600人前後。およそ15人に1人くらいですか。ちょっと少なくないですか？

みなさんお気付きでしょうか？この会報が前号より薄くなったのを。6月から自彊会のホームページを一新して充実させたこともありませんが、現実的に予算がないことも原因です。その他、学年同窓会の支援金、母校支援金等々の予算削減も検討されています。15人に1人が10人に1人になれば3年後でもなんとかやっているといます。5人に1人になれば百周年に向けての基金を充実させることが出来ます。3人に1人になれば年会費を下げる事が出来ます(多分)。本当に危機的状況なんです。この会費は払わないからといって罰則もありません。それに若い社会人や子育て世代に無理は言えません(言いたいけど)。でも、少し余裕のある人や、年輩の方は頭の片隅にノブレス・オブリージュ(社会貢献)という言葉を考えていただいでご協力お願いいたします。

最後になりましたが私にとって明石高校での3年間は人生の宝物でありました。乞われて辞するのを潔しとしなかった理由であります。それと私にその精力があるかどうかは別問題ですが、精一杯やらせてもらいます。

もくじ

新会長あいさつ	1
新校長あいさつ	2
総会案内	2
自彊不息	3
学年同窓会交歓	4
支部だより	12
支部・部活動同窓会 自彊会ゴルフ会	13
人事異動	14
進路状況	16
合格者の声	17
部活動報告	18
部活成績・記録	19
おみやみ・同窓会役員	20
決算報告・事業報告	21
おめでとうございます	22
前会長退任あいさつ 寄付のお礼	23
同窓会開催のお知らせ 事務局より	24

変化のとき



第25代校長

西^{にし} 茂^{しげ} 樹^き

自彊会の皆様におかれましては、ますますご健勝にお過ごしのこととお喜び申し上げます。平素は本校の教育活動に並々ならぬご支援とご協力をいただいております。まずことに厚くお礼申し上げます。

このたび、藤木原洋前校長の後任としてまして伝統ある明石高校の校長を拝命いたしました西茂樹でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

教育をめぐる環境は今、大きく変わろうとしています。高大接続改革が声高に叫ばれる中、新学習指導要領において「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」が学力の3要素と位置づけられ、それらを合否判定に活用する大学入試改革が推し進められています。現2年生（73回生）が受験する大学入試から、英語におけるスピーキングと検定の導入、センター試験に替わる大学入学共通テストと思考力・判断力・表現力を

問う記述問題の出題、主体的・協働的に取り組んだ活動歴の評価等、従来のペーパーによる1点刻みによらない入試が実施されようとしています。

本校におきましては、これまで、県下唯一の美術科の設置、西オーストラリア州モーリー高校との国際交流、理数探究類型の設置等、歴代校長のご尽力と自彊会の皆様のご支援によりまして学校改革を進めてまいりましたが、その基盤の上に立ち、企業や大学等との連携による課題研究や、探究活動・表現活動のほか、英語4技能の向上を図るための授業工夫と改善等にも積極的に取り組み、生徒達の進路実現を支援するとともに、創立100周年、さらにその先を見据えて着実に歩を進めております。

建学の精神である「自彊不息」を基軸にして、校歌にある「集え・競え・誓え」の気概を持った「社会的で創造力豊かな自主的個人」を育成し、明高のさらなる発展に貢献できるように微力ながら全力で取り組む決意ですので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

2019年度総会のご案内

左記にありますように、定例総会を開催いたします。多数ご出席頂き、忌憚のないご意見をお聞かせ下さい。

記

期日 2019年6月29日(土)
時間 午前10時(受付は9時40分より)
会場 アスパア明石7階

- 次第 ①会長あいさつ ②議案審議 ③質疑応答 ④その他

同窓会入会あいさつ

津崎 直暉(高71回)

この度は、私たち第71回生、348名の「自彊会」入会をお認めいただき、ありがとうございます。

私たちは、この明石高校を卒業し、それぞれの進路に向かって新たな一歩を踏み出します。進む道はちがっても、「自彊会」の一員としての誇りを忘れず、母校明石高校の伝統に恥じない大人になるように努力していきたいと思えます。

まだまだ若く至らない私たちですが、これからもご指導いただきますようどうぞよろしくお願い致します。

ひととき

ある日、電車に乗った。座って見回してみると、ほとんどの人がスマホを見ていた。誰かと繋がっている安心感、自分の存在のアプリ、など多くの人に認めてもらいたいのかなと思いつつ、私は窓の外を眺めていた。春だ。春という言葉聞いたとき、3月は、少し憂いを含み、去りゆく淋しさと旅立ちの希望が感じられる。4月は、たくさんの花が開き、新しい始まりを思わせる明るさがある。5月は、新緑が萌え、世の中にはこんなにもたくさんの緑色があるのかと感動する。

さて、電車の中に戻ろう。そこに居る人たちは、自分の居場所はどこであるというように、スマホの操作に熱心である。私は、人と人が簡単に繋がることができると、知らないことを手軽に知ることができることや、知などを決して不必要とは思わない。しかし、文明の進歩を喜ぶことと、自然を愛することがいつまでも両立するものであって欲しいと願う。

茨木のり子さんの詩に「人間には行方不明の時間が必要です」というのがある。人には「ふっと自分の存在を掻き消す時間」が必要と。一人、「ポワン」としている時間があるから心にゆとりが生まれる。案外、そんな時に自分を客観視できるのかも知れない。「ポワン」として窓の外を見て、春だなあと季節を愛でて欲しい。(幸)

自彊不息

このコーナーは、各界で活躍されている方、自分の夢を追いつける個性的な方を紹介するものです。

64東京オリンピック出場

浅井 浄さん(高12回)

来年2020年は東京オリンピックの年。1964年の東京オリンピックにわが明石高校12回卒業生の浅井浄さんが400mリレーで出場されたことをご存知でしょうか。この機会に宝塚のお住いをお尋ねし、79歳の現在も非常に元気な浅井さんご本人から当時の思い出やその後のご活躍の軌跡を語っていただきました。



竹内前会長と浅井さん

【浅井さんがお生まれになった1940年は戦前でしたが：】

東京で生まれましたが、医者であった父が開戦後ベトナムのサイゴン市(現ホーチミン市)の病院に派遣されたのに伴い、家族で移り住みました。終戦後上海を経由して7歳の頃帰国しましたが、小学校では日本語に苦労したことを今も思い出します。

【高校時代の陸上部の思い出についてお聞かせください】

家が林崎にあり自宅から学校へは自転車、放課後は明石公園へ行き練習、その後学校へ戻ってから帰宅するというランニングメニューを毎日こなしていました。コースに起伏があり当時は辛かったですが、今となっては良いトレーニングになったと思っています。

短距離走法など技術的な面は、当時明石市の体育課長で後に小野市長となられた故井上増吉先生に指導を仰ぎました。厳しい指導でしたが、お蔭でインターハイの100mで全国優勝することができました。また陸上部顧問の故三宅三治先生にも多くの思い出があります。3年生の時インターハイ出場のため三宅先生の引率で東京へ行った際、同行した山森洋助(高13回)さんと共に宿舎で豪華なステーキを頂きました。一つ歳下の私の弟も明石南高校からインターハイ出場しており、たまたま同じ宿舎に泊まっておりましたが、それを見て「明高はええな〜!」と羨ましがっていたのを覚えています。後に知りましたが、ステーキは三宅先生の自腹でのご馳走だったそうです。

64年オリンピック出場

関西学院大学経済学部へ進学後も陸上競技は続けました。4回生在学中の1964年、東京オリンピック400mリレー選手に選考され出場の機会を得ました。

第1走者：飯島秀雄氏(早稲田大)、第2走者：蒲田勝氏(東急電鉄)、第3走者：浅井、第4走者：室洋二郎氏(前田建設)の強力チームで、準決勝で40・6秒を出し日本記録更新するも、惜しくも8位となり決勝進出はなりませんでした。近年、日本はリレー競技で世界のトップクラスを走っていますが、他国チームにはない選手相互の信頼感、絆の強さが引き継がれていると感じます。リレーでは個人の走力もさることながらバトンパスが最重要であることは今も昔も変わらなないと確信しています。

阪急電車勤務時代

関西学院大学を卒業後、阪急電車へ入社しました。入社直後の現場実習期間には車掌や運転士の国家試験にも合格し、神戸線、今津線、夙川線などで営業車両を運転しました。当時の電車はエアブレーキの作動遅れが大きく、スムーズな制御は非常に難しかったのですが、陸上競技で培った運動神経でカバーできたと自負しています。ただ仕事上では同僚にも元オリンピック選手であったことを封印していました。

阪急ブレイブスでのコーチ時代

その後グループ内の阪急ブレイブス球団へ出向して17年間マネージャ兼コーチを務めました。私の経歴を知った西本監督から選手のランニング指導を任せられました。教えるには新人の福本豊氏、山

田久志氏などがいました。西本氏の方針で、当時の各種スポーツに共通していた軍隊式の精神・肉体強化方式から脱却して、科学的な現代のトレーニングへ変換しました。スタートから低い姿勢のまま加速するという100m走の原則、すなわち①スタート②加速③フロアディング④ゴールの流れは野球の走法にも通じるものがあり、陸上競技の経験を活かした指導ができました。また初速重視の走法へ改善することにより、守備面での改善が著しいことも実感しました。

―現在：―

浅井さんは60歳で阪急電鉄を定年退職され、阪急ホテルズに5年間勤められた後、現役を退かれましたが、まだまだお元気で現在も宝塚市内の小学校で陸上競技の指導を続けておられます。

また明石高校で同期だった奥様、洋子さん(旧姓：宮谷さん)は永年民生委員としてご活躍され、平成29年に藍綬褒章を受けられました。

(文責・高18回 佐々木)



東京五輪陸上男子400mリレー予選で日本の第3走者を務めた浅井浄(右から3番目) 2017年3月27日(月)の岐阜新聞より



イラスト・安藤 勉 (中18回)

高1・2回生の米寿を祝う会



男女20名が出席

同窓会の伝統催事「米寿を祝う会」が平成30年6月23日、市内のグリーンホテル明石で開かれた。高校1回生10名、同2回生10名(うち女性3名)が出席され、同窓会や教職員58名から祝福を受けた。1回生は1948(昭和23)年卒(学制改革により明石高となる)と1949(同24)年卒、2回生は1950(同25)年卒(24年4月、学区制による男女共学

となり、女子30名入学)の変革期にあたる。元会長らのお祝いの言葉の後、米寿の人たちひとり一人が紹介された。記念品の米寿の煎餅と花束が2回生の佐野卓司さんに渡され、1回生の竹原學さんが代表として挨拶をされた。会場内は和やかな雰囲気にも包まれ、宴たけなわの中、全員で明中、明高の校歌を斉唱、アカペラで「青い山脈」を合唱した。閉会の挨拶と万歳三唱は安藤勉・同窓会副会長(中18回)が行ない、安藤さんはオペラ『リゴレット』から「女は気まぐれ(女心のうた)」を高らかに歌われた。

米寿同窓会

高校三回

桃尾 行 男

米寿記念同窓会を3月31日明石駅東の「はたこや」で開催しました。参加は男性15名、女性14名、合計29名。案内状は136名に発送、34名出席の回答を受けました。その後死亡1名、途中欠席に変更1名、前夜体調理由に1名、当日体調急変で2名と次々に参加者が減少しました。米寿に相応した出欠事情、返信の内容で或程度予測して準備を進めた為突然の欠席にも運営に支障なく無事に終えることが出来ました。今回は気楽な集いにして欲しいという要望もあり、セレモニも無い食事会という形で計画、参加費は3000円(食事代)と写真代500円という同窓会と

しては気楽な会、経費は自彊会の補助金、飲み代は寄付金と男性に抛出を願ひ収支しました。米寿は数え年88歳皆々が『よくぞここ迄来て来れた』というのが実感、昔の楽しい苦しかった思い出、卒業写真を廻し見ながら今は懐かしく話し合いました。米寿で五体満足な人は居ません。不参加の人も含め時には級友に会いたい思いも強く、今後は当分の間、毎年3月31日桜の時に案内も無く集うことにしました。人生100歳時代の到来、楽しい集いに期待して健康に心掛けることを誓い合い散会しました。



高校五回

向井勝夫

平成30年10月19日、卒業65周年記念の同窓会をグリーンヒルホテル明石で開催しました。前回開催から10年たったというのに、83・84歳にもなっているのに、体調不良などで多数の参加が望めないのではないかと心配しましたが、「今回は最終開催です」と呼びかけていましたので、それなら是非出席せねばという人も居られて37名の出席を得ました。(昭和28年の卒業時の318名が物故者92名、住所不明58名、案内状発送は196通)。なお10年前参加で今回欠席が40名、そのかわり今回はじめて参加した人が10名もおられました。

皆、それなりに老いています。生きて来た長い年月のうち、思春期・青春期のたった3年間ではあったけれど、同じ学び舎で学び、クラブ活動に励んだ貴重な思い出があります。

会の中身としては特に変わった企画は無かったです。参加者全員が順番にマイクを握り簡単なスピーチをしてもらいました。

また、病気の話や子・孫の自慢話は控えめに、ということや、席順をできるだけ出身中学校同志と同じテーブルに着くように配慮したこともあり、懐かしい友との語りもはずみ、(口も耳も疲れ)随分楽しかった、と喜んでもらえました。

最後に校歌等、4曲も合唱し、90歳・100歳目指して元気に生きていこう、とりあえずは自彊会の「米寿を祝う会」で会いましょう、と誓い合って散会しました。

した。自彊会より多額の支援金を頂きありがとうございました。とうございました。



高校八回

嶋崎晴夫

夜来の雨も止み、雲間に青空が所々に見えるお天気になりました。

平成30年9月27日、8期同窓会は53名の旧友が集い開催されました。

かねてより、会場は宴席から外の風景が見えることを選択肢の一つと考えていました。処々下見の結果、過去にも使ったことのあるシーサイドホテル舞子ビラ神戸を会場と決めました。殆ど会うことのない旧友と会話出来る機会を作るのが同窓会一番の役割だと思ひ、多くの方との交流が可能な進捗に努める事にしました。受付開始早々、その場で会話の輪があちらこちらで。揃ったところで庭園での写真撮影。期待した快晴にはならず残念ながらも一つの出来に。プロにとっても自然光の下では難しいのではと。定刻、12時30分に開宴。各テーブル毎に用意が整い次第乾杯で始まります。

前半は食事と共に、後半は席を離れて自由に、酒杯を傾けながら交流が進み、会話がはずみます。

その間、水野耕作氏から著書、介護老人保健施設に関する書籍出版の紹介があり、設計から施工まで関った森本隆也氏からは、大橋に関するエピソードと大規模工事に着工から竣工までの事故死がなく稀有のことだとし、台風による閑空の事故から大橋に大型船が追突した時の影響につき調査、検討が必要では、との話がありました。

ホテルは旧有栖川家の跡にあり、会場の窓から昔の面影を残す芝生の中に姫子松が点在する庭園が広がり、その先に大橋が伸び、淡路島が展開する眺望豊かな光景が見渡せます。

同席の木村健氏から戦後、別邸はアメリカ軍に接収され将校クラブに使用、訪問の機会があり、その文化に驚いたとのお話、学校時代を含め話題は多岐にわた

り参加してよかった2時間だったのではと思っています。

外の景色を見ながらの宴会は快晴とはならず期待外れに終わってしまいました。最後に校歌を全員で斉唱閉会となりました。ホテルに残り2次会を、橋の科学館に立ち寄る人がいたかも、三々五々、思いの散会となりました。次期、幹事はF組に。自彊会より支援金をいただきましたことにお礼を申し上げます。





傘寿記念

高校十回

藤原 博

平成30年11月9日、場所は「シーサイドホテル舞子ビラ神戸」、少し曇天気味で蒸し暑さを感じたが、明石海峡大橋は美しい弧線を描いていた。

その日、我ら明高10回生は傘寿記念同窓会のために52名が集まった。

2年半前にも喜寿記念同窓会を行なったが、多くの要望により今回も小山君の音頭のもとに開催することになったのである。

それぞれに老化の悲哀を訴えながらも集まった52名は、校歌斉唱・乾杯を終えしばらくすると、指定席を離れ懐かしき友を求めて入り乱れての放浪が始まる。体力・酒量は落ちても気力・饒舌は衰えず、懐旧・交歓談で大いに盛り上がる。

クライマックス演目としていた一人ずつの近況報告も、ついつい冗舌となり時間制限の打ち切りを告げられる者も多かった。

盛り上がりの究極は、全員による明高校歌・応援歌の合唱、応援エールとなり、名残り惜しの大団円となった。

傘寿の年を迎えられた喜び、それも青春時代に戻ったような気持ちで迎えられる喜びを共感できたひと時であった。

次の再会の場を求める声は出なかった



が、米寿までの道は遠すぎるとして近き再会を求める声は、いずれ又湧き上がってくるように思われる。



喜寿記念

高校十一回

大林 省三

母校を卒業して59年と7カ月の同期が集い、平成30年11月に「喜寿記念11回生同窓会」を市内のグリーンヒルホテル明石で3年ぶりに行いました。参加者は56人、前回より2人の減少でしたが、7歳の高齢にもかかわらず多く集まってくれたと、世話役一同感激しました。

大方の参加者は一線から退き、介護を受ける年齢になっているのだが、参加者は高3時代のクラスごとの7テーブルに分かれ、在学当時の話題を懐かしんだ。

高齢化で病院通いの話や老々介護の身近な話も多かったが、11回生の仲間には近年、褒章受章者が4人、絵画・二科展などの入選者、歌謡ライブで活躍する仲間も数人いることから、その活躍ぶりを紹介しあった。

最後は校歌を全員で斉唱、3時間にわたり思い出を語りあった同期会は終了して、三々五々に散会した。





喜寿記念

高校十二回

西村 培史

秋も深まった平成30年10月30日に、2年ぶりの同期会を喜寿の会も兼ねてホテルキャッスルプラザ（西明石）で開催しました。今回は幹事の交代もありましたが、幹事の皆さんが電話で参加の呼びかけ等もして頂き、64名の参加になりました。

まず、記念撮影から始まり、逝去された同期生への黙祷と校歌斉唱の後、乾杯の発声が一番遠方からの参加者にして頂きました。その後、懐かしい顔ぶれとの会食・歓談に移り、途中、シルバー川柳や、近況報告などを交えて、和やかに楽しい会話のひと時を過ごしました。閉会に先立ち、次回を二年後に開催する事を決めた後、応援歌で盛り上がり閉会となりました。その後も希望者は、隣の部屋に移動し二次会でのカラオケやお喋りで盛り上がり解散となりました。

今回も、様々な事情で不参加になった方が多くありました。この同期会をきっかけとして、日頃から気楽に集える小さな仲良しグループがいくつも生まれて、新たな交流が広がる事を期待します。ま

た、会を盛り上げるために、努力頂いた、会を盛り上げるために、努力頂いた幹事の皆様に感謝申し上げます。



高校十四回

西澤 豊彦

平成30年6月3日「グリーンヒルホテル明石」で開催されました。

当日は、天候に恵まれ、75歳の区切りということで、北は北海道から南は熊本県まで全国から卒業生382名中87名が出席されました。

残念ながら物故、高齢等々の為、恩師の出席はありませんでした。

先ず全員の集合写真を撮ってから、各クラス別に着席し、山端凱文氏の司会で全員で校歌を熱唱しました。学生時代のエピソードから、恩師の話、御多分に洩れず各々の健康状態の話等々、話題は尽きませんでした。

出席者全員の自己紹介、近況報告もされ、大いに食べ、飲み、喋り、二次会では大いに歌い、笑い、大盛り上がりで、大変有意義な一日を過ごすことが出来ました。

幹事の皆様有難うございました。





古希記念

高校十九回

尾谷 三枝子

平成30年11月4日(日)秋晴れの大安吉日、古希記念の同窓会をホテルキャッスルプラザ(西明石)で開きました。四年前の前回より多い、136名の参加があり恩師の高徳雄三先生もお元気な姿を見せてくださいました。お互いが再会を喜び合い、高校時代に戻ったかのように、時間を忘れるほど話が弾みました。

団塊の世代の中でも、同期生656名という最も人数の多い学年であり、日本の高度成長期に、常に競争の荒波にもまれ続けてきて仲間でした。気がつけば「人生70古来稀なり」と言われる年齢となりました。人生100年時代と言われる今日、これからの道のりは、あと何年ではなく、一日一日の積み重ねでつながっていくことでしょう。

今回は、同期生の思いがこもった演奏が、会場を和やかな雰囲気包んでくれました。本格的な機材を一人でそろえ、終始エレクトーンを演奏していただいた人。また、4名の同期生を含むブラスバ



ンドOBの親父バンド(ドソラド)の仲間。そして、後半その輪に加わっていた世界で活躍するトロンボーン奏者。皆様のお陰で大いに盛り上がり、思い出に残る記念の同窓会となりました。



卒業50周年記念

高校二十回

六波 和香子

平成30年4月28日土曜日、グリーンヒルホテル明石にて、明高20回生の同窓会を開催しました。

卒業して、はや半世紀、みなよく頑張ってきたものだ、健闘を称えあい、これからも元気で行こうと励ましました。すでに仕事や子育てを済ませた同窓生が大半で、初めてや遠方からの参加の卒業生も多く、地元中心で準備した幹事の皆さんもほっと安堵の気持ちでいっぱいでした。

当日は、4組担任の村上先生、そして闘病中にも拘わらず奥様やお嬢様に付き添われて佐伯先生が参加くださいました。歓談の場では、クラス別フリートークの時間を設けました。クラス幹事がそれぞれ趣向を凝らし、余裕のあったはずの時間が予定時間をオーバーしても、まだまだ止まらず、最後のクラスは自己紹介もできない状況になりました。

でも、全員がステージに登壇して、各人、50年の歩んだ姿を披露しました。若かったころの姿がよみがえると、言葉遣いもあの頃のままだ。

二次会も同じ会場で、一次会の3分の2の卒業生が残り、大盛況となりました。二次会は幹事から提供された景品付きのカラオケ大会。景品は早い者勝ちということで、声に自信のある卒業生はもちろん、景品の大ぶりの地元いちごに目がくらんだ卒業生も登壇するなど大賑わいとなりました。



次はいつ会えるという声を残しながら、卒業50周年同窓会は閉会となりました。お世話いただいた幹事や有志の皆さま、お疲れさまでした。ありがとうございました。



卒業50周年記念

高校二十一回

沖合建二

平成30年11月15日、晴れ渡る秋空の下での集合写真撮影から同窓会がスタートしました。

会場は、ANAクラウンプラザホテル神戸です。今回は、「明石高校21回卒業50周年記念同窓会」の名のもとに、92名の同窓生と恩師（武岡先生、中尾先生）が集いました。鈴木・原両氏の司会進行によりまして、逝去された同窓生に対し黙祷。中尾先生の乾杯の音頭で懇親会に移り、飲食をしながら各人の50年史を語り合い、大いに盛り上がりました。
また、生演奏をバックに



歌謡ショーも行いました。最後に校歌と応援歌を全員で斉唱し、次回開催を約束して散会しました。今回の同窓会開催にあたり、ご支援・ご協力いただきました方々に厚くお礼申し上げます。

高校二十三回

南谷雄司

平成30年5月20日（日）に第二十三回生学年同窓会を、神戸メリケンパークオリエンタルホテルで開催しました。二次会は19時からルミナス神戸2に乗船し、明石海峡大橋までの夜景を楽しむクルージングを行いました。

当日は、卒業生88名の参加があり、15時30分から記念写真撮影を行い、16時から学年同窓会が開催されました。

来賓として、自彊会会長竹内信六氏をお迎えし、明石高校の現況報告等ご挨拶をいただきました。

開会に先立ち物故者への黙祷が行われ、司会・開会挨拶は南谷が担当し、久々の再会に会話が盛り上がり、各クラス毎の集合写真撮影が行われました。

特に当日は晴天に恵まれ夜景も素晴らしく、午後7時から二次会が開催され、全員が65歳以上ということもあり、シルバー料金の半額乗船料金で明石海峡大橋までのナイトクルージングを多数参加し楽しむことができました。大橋をくぐる際には歓声が沸き起こり大好評でした。明石の街を海上から眺め、船室では飲み物を飲みながら楽しい会話が弾み、写真撮影も行われました。

今年には冬季オリンピックの年で韓国の平昌でオリンピックが開催されましたが、

次回は、冬季オリンピックの開催年が古希（70歳）にあたる年に同窓会を開催することとなりました。





還暦記念

高校二十九回

小 椋 利 雄

平成31年2月9日に明高29回生還暦同窓会を開催できました。
開催に際し同窓会よりお祝い金10万円を頂きありがとうございます。
『一期一会』まさにこの言葉、ご縁があり明石高等学校で同じ学年となり無事還暦を迎えることが出来、こうして場を作れたことには感慨深い事だと思えます。
当日午前中に、「明高ツアー」を行いました。当日模試がありその関係で出られていた事務長さんに校内を案内していただきました。

我々の時の建物は、音楽教室・家庭科棟、武道・食堂棟、体育館、クラブハウス、中部講堂しかなく月日を感じました。また、美術科の先生のご好意により美術科棟を見学させていただきレベルの高さに皆驚いていました。
昼からグリーンホテル明石にて同窓会を堀(辻井)先生をお迎えし、同窓生130人で開催しました。
新たな物語者に黙祷を



捧げ、開宴、時間もいつの間にか過ぎて、最後に校歌(高校、応援歌、中学)を斉唱し閉宴となりました。
今回、時期的にインフルエンザの影響を受け欠席される方も多く、関東地区での大雪予報で心配し、この時期は開催に向かないなと思いました。
『生死事大 光陰可惜 無常迅速 時不待人』
どんどん欠けていく年齢になってしまつたようです。集まれる機会を今後を増やしていきたいと思えます。

卒業40周年記念

高校三十一回

吉 田 信 次

31回生の第4回同窓会は平成30年8月12日、ホテルキャッスルプラザ西明石で開催しました。
高徳先生、柴原先生、安田先生をお迎えし、4年ぶりの会は卒業40周年という区切りでもありました。
80名の出席者で、過去3回がいずれも100名を超えていたことを考えると少々寂しい感じもしますが、初めての明石開催のため「久しぶりに明石に来たよ」と言う声も聞かれ、これまでと変わらず大いに盛り上がりました。

今回も司会を伊澤くんにお願いましたが、進行ぶりは流石の安定感、ありがとう！BGMはいつも馬場さんをお願いしています。今回も練りに練った選曲が会場を盛り上げてくれました。スクリーンショーのタイトルはズバリ「40年が過ぎました」。馬場さんと私の古いアルバムから引っぱがした写真で当時を思い起こしてみました。次回は皆さんの写真を披露してみませんか？

最後は5組の「色君がカメラマンを買って出てくれ、急遽「クラス写真撮影会」を開催。金屏風前のステージで先生方にも入っていただき、華やかな写真が撮れました。「商売道具ではない普通のスナック用のカメラだけ」と謙遜しながらでしたが、しっかり画像の調整もしてくれて、God!な写真ができています。画像のデータは10クラス分全て預かっていきますので吉田まで連絡してくれたら送りますよ。

次回は2020年、還暦同窓会の開催を予定しています。



高校三十七回

伊 原 洋

卒業式から34年、平成31年2月17日(日)季節はずれの暖かい日差しの中私達37回生はグリーンホテル明石にて初めての学年同窓会を開催致しました。
昨年6月に開催を決定し通知を先生10名、同期生384名に送付、回答170名、所在不明者91名の中、恩師を中心70名が集まり、3時間ではあったものの

恩師と仲間達の時間を無事に終了致しました。最初に自彊会だよりの広報と年会費納付のお願いを行い、同窓会開催にあたり明石高校自彊会より頂いた補助の説明、および同窓会名簿への登録願ひ等、次へ繋げる大切な話を説明致しました。

開会の時、参加者の半数以上が卒業以来の固まった表情の中、ご来賓の田中陽三先生、上村宣子先生よりお祝いの言葉頂いた時、元生徒達が一瞬で世界に望むあの笑顔になり歓喜の会での進行となりました。

歓談として、明高祭、修学旅行等学校行事はもちろんですが3年生の夏、野球部が24年ぶりに出場した第66回全国高等学校野球選手権大会等、思い出が豊富な学年だった事も有り、なぜこれまで開催しなかったのか責任転換をする場面もありましたが、それもあの頃に帰った活気有る議論で次回の開催に問題無しを確信致しました。その中で社会人になった時必ず聞かれた出身校「明石です」このふた文字が表す名門と伝統を実感した同窓生が多数いた事も先輩の方々への感謝の気持ちで話もはずみました。

終盤には旧応援団による応援歌1番拍手をもって盛り上がり校歌斉唱で感動を響かせる大合唱で幕を閉じました。

2次会よりご参加いただけ小南浩一先生には大人同士の会話が出来た親近感を頂戴致しました。特に成人病の予防とその対策等これから生きて行く為の知識を笑いの中で真剣に教えていただき有難うございました。また開催にあたり各役割り等ハズレクラスを作る事無く受付時の発表でご承諾いただいた1組から9組の仲間達さらに今回お世話役をお願いした遠山君、藤木君、上田さん、中山さん、東野さん、今後も宜しくお願い致します。次回開催につきましては7年後として



おりましたが、後のご意見多数の為3年後を見据えての計画と致しますので恩師、同窓生の皆様にはその時までどうか健やかに過ぎられる事を願います。先輩後輩の皆様方過去の同窓会開催情報と支援金有難うございました。心より感謝しております。

最後に4次回メンバーで勝手に作った37回生スローガン
より強くより永く よりやさしく
37回生を代表し御礼申し上げます。

69回生 成人記念同窓会

学年主任 前田 浩人

平成31年3月21日、平成最後の春分の日、明石高校69回生成人記念同窓会が中部講堂で開催されました。当日の朝は一時的に強い雨風が吹くなど心配された天候ではありましたが、卒業生らが集合する時間には次第に回復し、同窓会の担当の先生に用意して頂いた傘袋も、なんとか使用せずに済みました。

同窓会に集った卒業生は約120名、それに加えて学年を担当してくださった先生が、転勤された先生も含めて12名集まりました。最初に全員で記念撮影をし、続いて先生方一人ずつから祝辞が述べられました。久しぶりに聞く学年の先生方の近況や思い出話に、会場は一気に和やかな雰囲気になりました。そして全員でビンゴゲーム。同窓会から賞品を出して頂き、ささやかながら前田賞も用意させて頂きました。その後は歓談タイム。卒業生との思い出話には、2年間の空白が一気に埋められたような感覚を覚えました。この2年間浪人生として目標達成に向けて努力し続けた人、社会人となって立派に立ち続けている人、大学に入っただがアルバイトに明け暮れている人、高校時代と変わらず部活動に青春の日々を懸けている人、けれどもどんな卒業生であって、久しぶりに見たその顔は明るく輝いて見えました。さまざまな理由で参加できなかった卒業生も含め、69回生全員に幸多かれと祈らずにはいられます。最後に、この会の開催にあたり、いろいろと尽力をして頂いた同窓会並びに先生方や卒業生に感謝申し上げます。



支部だより

美術科支部

鷲森 智美 (高38回)



資料館にて

2018年6月30日(土)、明石高校の資料館をお借りして「第12回同窓会美術科支部総会」を前回より少し時間をずらして開催いたしました。貴重な時間にも関わらず、遠方からもご参集下さり本当にありがとうございます。今回は総会資料以外にも参加者の活動のお知らせや美術科在校生の活躍なども展示配布し、

世代間のギャップを新鮮にまた楽しく感じながらも充実した時間を皆さんと共に過ごしました。

総会後の恒例行事(笑)、場所を移しての開催『新幹事歓迎会&懇親会』でも、美術科33回生(70回生)幹事との初顔合わせは叶いませんでしたが、懇親会からの途中参加もありまして「ぼくって、新幹事役員運営スタッフになってるやん!」と、失笑しつつも喜んで下さり、大爆笑の中、乾杯の発声となりました。今後もう少しずつではありますが、支部の活動を通じて世代を超えた幅広い芸術活動の交流も深めて広く配信していきたいと思っております。

美術科の卒業生の皆さん、2023年に開催予定の、『学校創立100周年記念事業・同窓会特別美術展2023(仮題)』の実現に向けて、支援お願い申し上げます。本件については本年7月より、同窓会美術科支部公式WEBサイトのホームページなどで『同窓会特別美術展2023(仮題)』に出品される方へ、募集のお知らせを随時掲載しますので、どうぞ応募下さいます様よろしくお願いいたします。

また、2018年度での支部総会で、出席された会員の皆さまから承認を頂いておりました「第13号美術科画報の発行」ですが、諸事情により、支部役員の了承を得、2019年度の発行を中止と致しました。美術科画報を楽しみにされている方々には大変申し訳ございませんがご

理解を賜りますようお願い申し上げます。掲載予定の記事については、公式ホームページで随時お知らせしますので、暫くお待ち下さい。

母校で取り組まれている『ふるさとひょうご寄付金で明石高校を応援してください(第2期)』県立学校環境充実応援プロジェクトでは寄付金活用事業の選択の一つとして、母校美術科の応援事業も含まれております。支部としても積極的に支援したいと考えていますのでよろしくお願ひします。

最後になりましたが、美術科支部活動にご理解を賜り深く感謝いたします。また、ご支援いただきました皆さまにも厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございます。

2019年度同窓会美術科支部役員表

- 会長 鷲森 智美 (高38回)
- 副会長(関西担当) 谷本 研 (高44回)
- 副会長(関東担当) 阿随 秀昨 (高39回)
- 東 敬祐 (高39回)
- 津村 陽子 (高40回)
- 井上 恵子 (高39回)
- 佐藤江里子 (高52回)
- 田中 章博 (高40回)
- 幹事(WEB担当) 若干名
- 幹事・運営スタッフ 若干名

【お知らせ】

同窓会美術科支部が運営する公式WEBサイトのホームページを開設しています。

ブログ・mixiや『明石高等学校同窓会美術科支部』facebook@meikoubijutsuでも配信中です。



新幹事歓迎会&懇親会

2019年度同窓会美術科支部総会のご案内

下記にありますように、第13回総会を開催いたしますので、多数ご出席いただきますようよろしくお願い申し上げます。
※例年通り懇親会も開催しますが日時変更、詳細は後日ホームページ等でお知らせしますのでご確認ください。

記

- 期日 2019年7月13日(土)
- 時間 15時30分より (受付は15時から)
- 場所 明石高校資料館



同窓会美術科支部 ブログ



同窓会美術科支部 Facebookページ

県庁支部

神足孝明(高33回)

第12回県庁自彊会総会を開催

平成31年1月30日(水)に、グリーンヒルホテル明石において、第12回県庁自彊会総会を開催いたしました。

総会には、来賓として、明石高校から、蔭木校長を含め4名の方々にご出席いただきとともに、同窓会「自彊会」からも、竹内会長、佐々木副会長にご出席いただきました。

また、特別会員のOBの方々を含め、28名の出席を得て、開催することができ、和やかなうちに、とても楽しいひと時を過ごすことができました。なお、総会では、新会長の紹介も行いました。



13回生首都圏同窓会を開催

中川雅弘

平成30年11月20日、13回生の首都圏同窓会を開催しました。学年全体の同窓会は、2年に1回明石で開催されていますが、首都圏在住者の同窓会は、人数も少なく手軽に集まることから、30年以上前から毎年開催しています。予め同窓生の都合等を確認した上で、今回は11月20日に決定、国宝に指定されている迎賓館赤坂離宮の見学を行いました。

この日午前10時、四ツ谷駅に18名が集まり、早速迎賓館に向かいました。華麗で気品に溢れるネオ・バロック様式の西洋宮殿に、しばし圧倒されながら館内をじっくり見学しました。また皇室や安倍首相達が外国からの国賓を迎える様子が、大きく写真で展示されており、テレビニュース等の映像が、この場から発信された臨場感を感じ取ることが出来ました。館内見学後、秋晴れのポカポカ陽気の下、主庭前で記念写真を撮り、想い出の1ページとしました。

昼食は新宿に移動し、蟹のコース料理に舌鼓を打ちながら、参加同窓生一人一人の近況報告を聞きました。76歳ということもありますが、参加者全員がより健康やかに日々を過ごしていることを、お互いに喜び合いました。

私達の同窓会は、幹事は持ち回りで、毎回テーマを決めて開いています。ちなみに来年は、豊洲市場の見学と決まっております。みんな今から楽しみにしています。



自彊会ゴルフ会活動報告

吉川一幸(高18回)

- 平成30年度の活動について報告します。
- 30年4月5日、垂水ゴルフ倶楽部で第92回コンペを開催。11組39名が参加
- 優勝 瀬川勝太郎氏(高25回)
- 準優勝 立田理氏(高18回)
- 30年10月11日、明石ゴルフ倶楽部で第93回コンペを開催。10組39名が参加
- 優勝 吉川秀人氏(高15回)
- 準優勝 立田理氏(高18回)

ハンドボールOB会

北山力也(高40回)

毎回、終了後の懇親会では会長挨拶、新規会員並びに退会会員の紹介、前回の決算報告、コンペ成績発表、トピックス披露、校歌斉唱などで大いに盛り上がりしております。引き続き新規会員を募っておりますので参加ご参加の方は下記までご連絡下さい。(連絡先：榎ながい078-936-0751) 毎年 春は桜の垂水ゴルフ倶楽部、秋は紅葉の明石ゴルフ倶楽部で開催しております。

女子ハンドボール部の全国大会出場に際し、自彊会からお祝いの支援金を頂きましたこと、紙面をお借りしましてお礼申し上げます。ハンドボール部OB・OGの皆様にも支援の募金を頂戴しましたこと、お礼申し上げます。

全国の壁は厚く、残念ながら延長の末、聖和学園(宮城県)に35-37で敗れましたが良い経験ができたと思います。総体での勝利を目指し、練習に励みますので、今後ともご支援よろしくお願いいたします。

お世話になりました

オンラインワン

前校長 蔭木原洋



自彊会会員の皆様におかれましては、ますますご健勝にお過ごしのこととお喜び申し上げます。平素は、本校の教育活動に対し多大なご支援・ご協力を賜り心から感謝を申し上げます。

着任してあっという間の明高の二年間でした。私の校長生活七年間の集大成ということで、全力を注いで参りました。前にも「自彊会だより」に書かせていただきましたが、明高は、信頼の「信」という一文字で、明高生と教職員、自彊会の皆さんが結ばれている学校だと確信した二年間でした。「信」という字は、訓読みで、「のびる」という読み方と、もう一つは、「まかせると」という読み方があります。自彊会の皆さんが、明高生と教職員のことを信頼して下さって、任せて下さっているからこそ、明高生は伸びていきます。明石高校も伸びていきます。

リーワンです。だから、明石高校が「兵庫でたった一つ、オンラインワン」の学校になるということ。明高でしかできない学習内容、明高でなかったら出来ない学校行事、そういったものを目指して学校づくりを教職員・在校生一丸となつてやってきました。着任以来、生徒・教職員にはことある度に愛校心を持つよう。人的財産を手に入れよう。明石高校で一所懸命勉強しよう。という3つのキャッチフレーズを話してきました。

「明高は人間を変える。人間を変えるような学校でなければ明高でない」こんな学校が明石高等学校です。明高生には、社会に出たときには、社会の一隅を照らすために懸命に黙々と仕事をしてもらいたいです。それが人に知られようと知られまいと、評価されようがされまいが、決して嘆くことなく、怒ることなく黙々と明日を拓く仕事をして欲しいです。

われわれ教職員・生徒一同は、来るべき100周年に向け、自彊会の皆さんが築かれた素晴らしい歴史と伝統の基礎の上に、明石高校の更なる発展のために「自彊不息」の建学の精神に基づいて、努力してまいりたいと思っております。宜しくご指導・ご鞭撻の程お願いいたします。

私も明高応援団員の一人として、微力ながら力を尽くしていきたいと思っています。

縁に導かれて

丹野孝広



教員生活を憧れの「明高」で終えることができました。中学生の私は、明石海峡を挟んだ淡路北端の町で、明高での高校生活を夢見ていました。私自身は卒業生ではありませんが、次女が卒業しましたので、凶らずも「私の夢」は実現しました。不思議な縁です。

英語教員として明高に赴任したのが平成18年4月1日、まだ総合選抜制の時代でした。その後、複数志願制がスタートし、学区再編があり、現在に至っております。その間、新生明高の希望と夢を実現すべく多種多様な改革がありました。

私の役割は、ひとつは「英語の学力をつける」こと、本質的な知識と論理的思考力で「4技能」を鍛える。もうひとつは、「結果の出る進路指導」、感覚とか経験に頼るのではなく、統計理論と数値データに基づく「情報分析」を指導の判断根拠にする、ことでした。

この13年間は、先生方のお力添えと生徒たちの純粋な熱意に支えられた毎日でした。今更ながら微力を痛感しています。明高には感謝の気持ちしかありません。皆様の益々の発展を祈念し、挨拶とさせていただきます。

人事異動

★ 転退任 ★

- 蔭木 原洋 先生 [校長] (退職)
- 原田 浩一 先生 [事務長] (退職)
- 丹野 孝広 先生 [英語] (再任用退職)
- 東田 純一 先生 [理科] (再任用退職)
- 山田 耕平 先生 [地歴] (須磨東高校へ)
- 三尾 貴子 先生 [地歴] (明石城西高校へ)
- 野田 裕子 先生 [美術] (北須磨高校へ)
- 岡田 千穂 先生 [家庭] (明石西高校へ)
- 山本 浩子 先生 [国語] (明石北高校へ)
- 末廣 恵 先生 [英語] (多可高校へ)
- ★ 着任 ★
- 西 茂樹 先生 [校長] (相生高校より)
- 野口 秀幸 先生 [事務長] (星陵高校より)
- 西村 有生 先生 [地歴] (須磨東高校より)
- 塩谷 裕司 先生 [英語] (明石城西高校より)
- 菊川 敏 先生 [美術] (加古川北高校より)
- 三浦 千珠子 先生 [家庭] (明石西高校より)
- 吉野 美音 先生 [国語] (明石北高校より)
- 堀江 玲那 先生 [英語] (赤穂高校より)

感謝

東田 純一



私と明高との出会いは今から38年前、昭和56年(1981年)9月に遡ります。非常勤講師として36回生1年生の化学Iを担当しました。その当時は当然旧校舎。制服も男子は学ラン、女子は紺の標準服でした。その後、ご縁があった平成17年(2005年)に赴任し再用2年を含めて14年と7か月間お世話になりました。

「教師の生活の中で一度は学年主任をするべきだ。」と考えていた私は平成25年(2013年)から68回生の主任をやらせていただきました。化学の教師としての第一歩を切らせていただいたのも明高。教師として集大成として学年主任をさせていただいたのも明高です。本当にお世話になりました。次年度は初心に帰って明高で非常勤講師として化学を教えさせていただきます。

ありがとうございました

野田 裕子



明石高校では、美術科の担任を59回生(美術科22回生)、62回生(同25回生)、65回生(同28回

生)の9年間、美術科長として6年間の計15年間お世話になりました。私の今までの教員生活の半分にわたる年月を明石高校で美術の専門教育に携われたことは、美術教師として何よりの幸せです。

ただがむしゃらにその日、その瞬間を生徒たちと共に生きた担任としての日々。「美術」を専門に学ぶことの意義と意味を改めて考えることとなった美術科長としての日々。それらのどの時にも、絵の具にまみれ、暑さ寒さに耐えながらひたすらに技術と感性の向上に努める美術科生たちの姿がありました。そんな彼らの学びを支えることはもちろんのこと、彼らの姿と能力を多くの人に知ってもらい、彼らの生きる道を切り開く一助となるのが、いつしか私の目標となっていました。

まだまだ道半ばで十分なことができたとは言えませんが、「明石高校美術科」で学ぶことの魅力を少しでも多くの方に伝えられていれば嬉しく思います。最後になりましたが、この場をお借りして美術科の様々な活動を支えてくださった同窓会の皆さまや地域の皆さまに感謝を申し上げます。ありがとうございました。これからもどうぞよろしくお願ひ申し上げます。明石高校と同窓会の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。



ようこそ

明高へ

3月には、永らく母校の発展にご尽力いただきました10名の先生方とお別れをしました。そして、校庭の桜が満開となった4月、新たに8名の先生方を明石高校にお迎えしました。

西校長、野口事務長はじめ着任された経験豊かな先生方が、母校の発展、飛躍に力を注いでくださるものと信じます。

明中以来の伝統である「大家族主義」がもたらす空気は、時には「緩い」と感じられるかもしれませんが、時代にあった「大家族主義」を創造いただければ、と願っています。

明石高校再び

菊川 敏

このたび、県立加古川北高等学校から赴任いたしました、菊川敏と申します。実は9年前まで明石高校で勤務しておりました。しかし、9年も経ちますと職員も入れ替わり、かなり仕事の面でも変化しております。業務内容がずいぶん増えて、今は目の前のことをこなすだけで精一杯です。

変わらないのは、この学校を取り巻く雰囲気でしょうか。それはどこから来るのかわかりませんが、一度離れてみてあらためて感じる感覚です。おそらく、この学校を愛する生徒や先生、卒業生の日々の活動の積み重ねが学校のカラーを作り出しているのではないかと思います。

再び明石高校で働かせていただくチャンスを得たので、生徒とともにさらに日々活動を積み重ねることで、伝統を未来へとつないでいきたいと思えます。





社会から

期待される人として...

71回生学年主任 山田耕平

青葉繁れる好季節を迎え、自彊会の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

2017・18・19年4月進路実績表

Table with columns for University Name, 17th year, 18th year, 19th year. Includes sub-sections for National and Private Universities.

Table for Private Universities (私立大学) with columns for University Name and counts for 17, 18, 19 years.

Table for Public Universities (公立大学) with columns for University Name and counts for 17, 18, 19 years.

Table for Short-term Universities (短期大学) and Specialized Schools (専門学校).

Summary table for Employment and Public Servants (就職・公務員).

数字は合格総数、()内は既卒生の合格数 2019年4月22日現在

す。しかし、死に物狂いで努力した結果感じた「悔しさ」や、最後までやり遂げたという「経験」は、今後

い結果となりました。71回生は2年生の3学期に「第一志望届」を提出させて志望校を明確にし、3年生の

臨んだ生徒の多くが残念な結果となりました。来年度は大学入試センター試験の最後の年となりますので今年

に励み、社会人として相応しい資質を身に付けるよう努力を重ねて合格を手にすることができました。

伝統



サイエンス部

科学の楽しさを知り、 伝えたい

顧問 中江 涼

サイエンス部は高度な知識が要求されそうで難しいイメージがありますが、一言でいうと自分の探求心に正直な者の集まりだと思います。身の周りに知らないことは無限にあり、それに気づいて仲間と調べることがとても楽しい。皆で知識を出し合い、工夫し、まとめ、誰かにその面白さを伝える。そんな活動をしています。

春には弾丸ツアーを敢行し、滋賀、京都、奈良を巡り、琵琶湖博物館の見学やガーネット、ルビー、サファイアなどの宝石の採取を行いました。知っている宝石が近畿で産出しているという意外性があり、しかも自分の手で簡単に採れるという貴重な体験ができました。青春18きっぷを主に利用した弾丸ツアーでは、1か所あたりの滞在時間は1時間程度しかありません。そこで、パンニング（砂金を採る方法）の訓練を化学室で特訓し、精度を上げて、短時間でも宝石が採れるように技量を上げて臨みました。

また、毎年大人気の夏休み小学生教室と青少年のための科学の祭典（東はりま会場と神戸会場）では、新しいことをしたい、昨年来た人にも楽しんでもらいたいということで、新しい実験を準備しました。まずは反応などの仕組みを部員が理解できるように調べ、小学生でも分かるように説明や手順を工夫し、家でもできるようにプリントを準備するなど、いくらでも出現する問題点や課題を解決しながら毎日遅くまで準備をしました。当日は引退した3年も手助けに参上し、なんとか乗り切ることができました。人前に立つのが苦手だった部員もいるので、よく努力して説明できたように思います。

総合文化祭では、昨年に続き電子レンジで製作するルビーの研究を発表しました。簡単にいうと電子レンジで高温をつくってルビーの材料をかすとというものですが、マイクロ波を共振させて3千℃ぐらいの高温のプラズマを発生させ、ルビーの材料を溶融させる、というのは完全に大学レベルの物理です。どの学校の物理の先生に訊いてもよく分からないという高度な分野の研究を、電波すら詳しく習わない高校生に少しでも理解できるように説明するのは困難を極めました。しかし、一年生3人のみの絶望的な状況の中でも勉強し、発表直前まで準備や打ち合わせをして、全力を尽くしました。

やりたいことや知りたいことのために、時間をかけて調べ、実験し、議論する経

験は非常に貴重です。この経験が彼らの人生を少しでも豊かにし、彼らのイベントで実験した子どもが一人でも科学好きになってくれることを期待しています。



ワンダーフォーゲル部

平成30年度を振り返って

顧問 東田 純一

ワンダーフォーゲル部は「心身ともに鍛え、自然の中で、自然に親しみ、自然を愛する心。そして生きる力を育てる。」を基本方針として活動しています。

通常の活動は、柿本神社での10〜15kgの負荷をかけての歩荷練習やランニングによる基礎体力の育成。校内では、地形図の読み方、天気図の書き方、ロープワークなど座学を行っています。



ます。

月に最低一回は月例登山と称して六甲山系を中心に遠くは滋賀県の比良山系や大阪府の金剛山方面にも足を延ばしています。夏には白山（2702m）縦走を行い普段見られない色とりどりの高山植物を愛でることができました。

入部当初は800m級の山も登ることができなかった生徒が、今やJR芦屋から六甲山の最高峰。最高峰折り返しJR摂津本山まで所要時間8時間、走行距離20kmにも及ぶ登山行動ができるまで体力、精神力を身につけることができました。

山を歩く一歩は小さいですが、それを地道に繰り返すことによって踏破できる。目標達成ができるということがわかったのではないかと思います。

お悔み

Table listing names and school names for obituaries. Includes schools like 安中本佐校, 高小, 高小, etc.

福を(4月末日までの判明分) 祈り致しします。

2019年度同窓会役員

- List of officers for the 2019 Alumni Association. Includes roles like 会長 (President), 副会長 (Vice President), 常任理事 (Regular Council Members), 顧問 (Advisors), and 学年理事 (Year Council Members) with names and terms.

本部役員及び監査は総会で承認いただく予定です。

2018年度決算報告 (2018年4月1日~2019年3月31日)

1 一般会計				(単位:円)
(収入の部)		予算額	決算額	増減
1	2017年度繰越金	1,205,301	1,205,301	0
2	2018年度年会費	7,800,000	8,014,000	214,000
3	財政調整基金より	3,200,000	3,200,000	0
4	雑収入(ご寄付、銀行利息等)	4,699	156,001	151,302
合計		12,210,000	12,575,302	365,302
(支出の部)		予算額	決算額	増減
1	会議費(総会・理事会・本部役員会等)	810,000	752,461	△57,539
2	事業費(母校・学年等への支援・広報活動等)	8,530,000	8,587,430	57,430
3	事務費(事務局・維持管理等)	2,660,000	2,621,617	△38,383
4	100周年積立金	200,000	200,000	0
5	予備費	10,000	0	△10,000
合計		12,210,000	12,161,508	△48,492
収入合計12,575,302円-支出合計12,161,508円=収支差額413,794円(次年度繰越)				
2 基金				(単位:円)
		(収入の部)	(支出の部)	
①	財政調整基金			
	2017年度繰越金	141,000		
	在校生納入	3,186,000		
	一般会計へ繰り出し		3,200,000	
	次年度繰越金		127,000	
合計		3,327,000	3,327,000	
②	自彊セミナー特別基金			
	2017年度繰越金	854,923		
	銀行利息	7		
	活動費(大学見学バス借り上げ料等)		79,560	
	次年度繰越金		778,370	
合計		854,930	854,930	
③	100周年記念事業特別基金			
	2017年度積立金	1,300,000		
	2018年度積立金	200,000		
	次年度繰越金		1,500,000	
合計		1,500,000	1,500,000	
3 監査報告				
2018年度の決算並びに関係業務について、会計帳簿および関係書類を監査照合した結果、適正に処理されていることを確認しましたので報告いたします。				
2019年4月4日				
		監査	加護谷榮章	印
		監査	草川 雄二	印

2018年度事業報告 (2018年4月1日~2019年3月31日)

月	日	内 容	月	日	内 容
4	7	会報第26号編集委員会(第3回)	10	20	第2回理事会
	14	第1回本部役員会		27・28	自彊セミナー「全統記述模試」(3年生)
	14	会報第26号編集委員会(第4回)	11	24・26	自彊セミナー「全統センタープレテスト」(3年生)
	21	第1回理事会	1	19	第4回本部役員会
5	26	会報第26号発行		19	同窓会役員等新年懇親会
6	16	第2回本部役員会		19	会報第27号編集委員会(第1回)
	23	2018年度総会・懇親会 (於 グリーンヒルホテル明石)	2	9	第5回本部役員会
7	10	第1回自彊セミナー運営委員会		28	第71回生同窓会入会式
8	4	自彊セミナー「関西学院大学」見学	3	9	第3回理事会
9	15	第3回本部役員会		9	会報第27号編集委員会(第2回)
	15	第2回自彊セミナー運営委員会		21	第69回生成人記念同窓会

おめでとーいになりますー!

長年にわたる地域医療への貢献が認められ、天皇皇后両陛下より園遊会に招かれた日下さん、原子力の安全な活用に効果を発揮する被ばく測定器具開発が評価され、フランス大統領から勲章を授与された細田さん、お二人にその時の様子や現在のお気持ちなどを書いていただきました。同窓の方が大きく評価されたことは自彊会にとっても嬉しいことであり、皆様にお知らせさせていただきます。

叙勲の栄誉に感謝

（榊千代田テクノル会長）

細田 敏 和（高14回）

自彊会の皆様こんにちは、明石高校14回生の細田敏和です。

この度、フランス共和国大統領からの国家功労勲章「シュヴァリエ」を2月27日フランス大使館大使公邸で在日フランス大使館ローラン・ピック特命全權大使から授与されました。

大使の授与式でのスピーチによりまずと、在籍中の榊千代田テクノルが開発した放射線作業従事者の被ばく測定器具「ガラス・バッジ」を基にフランス共和国 国立放射線防護原子力安全研究所（IRSN）と共同して世界最高性能の「IRSN型ガラス・バッジ」を開発し、フランス放射線作業従事者20万人の被ばく測定をしていること。同じ測定システムをヨーロッパのみならず世界各国へ広めつつあること、「改良IRSN型ガラス・バッジ」で2011年に起きた福島原子力発電所事故で避難された住民の方々の

被ばく測定をし、各人が被ばく線量を知ることと安心されたこと。フランスのメーカーと共同して放射能汚染測定装置を開発、汚染瓦礫の選別装置を開発したことが放射線安全に寄与したことが評価され今回の受賞に繋がったこととです。

1962年に明石高校を卒業して、近畿大学原子炉工学科に入り、1966年に放射線防護・原子力安全の分野の最大手の榊千代田テクノルに入社し、現在まで放射線原子力安全一筋で参りました。

社会人になる直前の大切な時期明石高校に在籍できた幸福と感謝をこめ、今回の叙勲の栄誉を報告させていただきます。



細田 敏和氏 ローラン・ピック大使

平成最後の園遊会に

元明石市医師会長

日下 孝 明（高13回）

「天皇皇后両陛下には来る11月9日赤坂御苑において御催しの園遊会にお招きになりますのでご案内申し上げます。」

宮内庁長官山本信一郎という案内が届きました。11月9日、雨の園遊会に夫婦で出席しました。赤坂御苑は赤坂御用地の一部で19万㎡、昭和38年から園遊会の会場として使われています。御用地には東宮御所、秋篠宮邸、三笠宮邸、迎賓館などがあり、広さは50万㎡、元は紀州藩中屋敷であったものが明治初期に献上された。広大な苑内

には大型テントが5張りほど張られ宮内庁の料理番により御用牧場で育てられた鶏や羊を使った焼き鳥、ジנגスキャン、軽食が振る舞われま

した。
午後2時、約2000人の参



日下孝明氏 御夫婦



列者の中、両陛下を先頭に皇族方がお道筋を謁見しながら約1時間歩まれました。傘の合間からしかご尊顔を拝することが出来ませんでした。優しく寄り添いながら歩まれる両陛下に平成最後にお目にかかれた感慨を持って見送りご退位の安寧を祈願しました。菊の紋章入りの三笠山饅頭をお土産にいただき赤坂御苑を退出しました。

今回のお招きは新聞によると「社会福祉・保健衛生関係」とのことでした。

お疲れ様でした

5年半の永きにわたり会長職をお務めいただきましたこと、心からお礼を申し上げます。明中・明高同窓会は、会員数が多いだけでなく、年齢の幅が大きく、全体の調和を保つことに大変な気遣いがあったことと推察いたします。本当に「お疲れ様」でした。

輝かしい百年を目指して

前会長

竹内 信 六 (高13回)

90周年の記念行事が無事終了し草川雄二会長が勇退された後、2013(平成25)年12月から5年半、会長を務めさせていただきました。

抱負として、学区内の旧制中学2校と同窓会同志の交流、建学の精神「自彊不息」を同じくする三重県立上野高校(旧制3中)との交歓を掲げましたが、実現するまでには至りませんでした。「同窓会費の納入率を少しでも高めたい」と取組みましたが、厳しい状況は続いています。今年、96周年を迎えました。百年まであと4年です。少子化が顕著になり、学級減が進行しています。市内の県立6高の統廃合も早晚訪れるかもしれません。「伝統校」の看板だけでは生徒は志望しません。明高の「看板」は何なのか、母校の先生方とともに同窓会でも真剣に考えていかねばならないでしょう。

母校は教員



学校創立「100周年準備会」報告

来る100周年に備え、同窓会が主体となり、準備会を発足させています。19年度には、学校、PTA、教育振興会、同窓会が一体となった実行委員会が組織されことと思われまます。

18年度は、充実した「百年史」を編纂する準備、母校の歴史を語る資料収集を中心に、「百年史」編纂委員会と「資料館」整備委員会が連携を取りながら活動しました。皆様のご協力で卒業アルバムも大部分が揃いました。若干抜けている学年もあります。該当学年の方に個別にお願いしながら全学年分を揃えたいと考えています。

準備会委員

- | | |
|----|--------------|
| 代表 | 和田 直樹 (高28回) |
| 委員 | 西 茂樹 (校長) |
| 委員 | 安藤 勉 (中18回) |
| 委員 | 伊川美智子 (高16回) |
| 委員 | 佐々木卓郎 (高18回) |
| 委員 | 吉田 眞司 (高21回) |
| 代表 | 佐々木卓郎 (高18回) |
| 委員 | 木村 健治 (教頭) |
| 委員 | 木下 淳一 (旧職員) |
| 委員 | 佐伯 敏裕 (高24回) |
| 委員 | 鷺森 智美 (高38回) |
| 代表 | 吉田 眞司 (高21回) |
| 委員 | 野口 秀幸 (事務長) |
| 委員 | 丹野 孝広 (旧職員) |
| 委員 | 山中 良秀 (現職員) |

資料館整備委員

校庭を明るく!

昨年3月、高校8回生の松本好雄さんより「自転車置き場の新設ご寄付」のお話がありました。自転車通学生が多いにもかかわらず、約100台分の自転車を屋根のない場所に置かざるを得ない現状でした。松本さんのお2人のお孫さん(ともに卒業生)が在学中苦労したことを耳にされ、ご寄付の申し出をいただいたわけです。しかしながら少子化の影響で、将来、生徒数120名減がほぼ決まっておりますので、生徒から要望の強い「照明設備の増設」に変更し、寄贈をいただきました。冬は真っ暗な中での下校、安全の面でも問題がありました。生徒も「明るくなってよかった」と喜んでいると学校から聞いています。本当に有難うございました。

「ふるさとびょう」寄附金のお礼と報告

足かけ3年にわたりご協力いただき、総額446・8万円が集まりました。

「寄附金で学校用地を第2グラウンドとして整備し、生徒がいっきと活動できる環境を作ります」の使用目的を実現することに使用させていただきました。去る3月末に工事が終了いたしましたので、お礼と報告をさせていただきます。

左に写真を掲載していきますように、草地在グラウンドに生まれ変わり、体育の授業や部活動に生徒たちが有効に活用できる場となっております。

引き続き、『ふるさとびょう』寄附金の制度を活用した第2期の取組みを始めました。詳細は明石高校のホームページでもご覧いただけます。これからもよろしくお願いたします。



整備前



整備後

※※※ 同窓会開催のお知らせ ※※※

東京自彊会

11月16日(土)
於：神戸大学東京六甲クラブ
(帝国劇場地下2階)
12:00～



高18回生(東京同窓会)

6月8日(土)
於：ガンシップ東京店
(ホテルニューオータニ・
ガーデンコート4階)
14:00～

高29回生

7月5日(金)
於：シップ・シェイブ
18:00～

高8回生

9月26日(木)
於：舞子ピラ
12:30～

高13回生

10月25日(金)
於：ホテルキャッスルプラザ
西明石
12:00～

高25回生

11月3日(日)
於：舞子ピラ
12:00～

高30回生(還暦記念)

11月3日(日)
於：生田神社会館
17:00～

高24回生

2020年4月25日(土)
於：ホテルキャッスルプラザ
西明石
12:00～

事務局よりお願い

- ① 転居されたときには新住所をお知らせ下さい。
- ② お亡くなりになった方の連絡については、間違い防止のため、ご逝去の年月日を必ずお知らせ下さい。
- ③ 学年全体の同窓会を開催される場合、支援金をお渡ししますので、代表の方は事務局へご連絡をお願いします。
- ④ 事務局が常駐でないため、電話が繋がらないことも多いと思います。住所変更等の連絡はホームページからも可能です。FAXの場合はこの番号をお願いします。078-913-6554
- ⑤ 同窓会運営の基礎となる年会費の納入に、ご協力をお願いします。お手数ですが同窓会費負担の振込手数料は郵便局ATMが1番安いです。

今回表紙には、美術科の現役生徒さんの作品を使わせてもらった。1月に兵庫県立美術館で開催された第34回明石高校美術展に立ち寄った際、2年生が課題として描いた校内風景画が多数展示されているのを見て、「次号の表紙はこれだ!」と思った。卒業生諸氏の活躍は本会報の紙面でも度々紹介されているが、現役の人達の若さ溢れる作品にも触れていただきたい。裏表紙はそれに呼応して、今回も中学8回生の安藤勉先輩に当時のアルバム写真をもとに描き起こしていただいたものです。

「自彊不息」の取材で浅井浄さんを宝塚のご自宅へお伺いした。やや小柄でスリムな体型を79歳になられる今も維持されており、対談中にお見受けした軽快な動作は陸上競技部時代、紺色のランニングシャツと白いランパン姿で、野球部のライト後方あたりで黙々と練習されていた若き日の浅井さんを彷彿とさせるものでした。

学校敷地の南西角にあり、かつて三宅先生、沢田先生、平木(発)先生など歴代の名物先生方がお住まいであった明中塾跡地は、このたび整地され第2グラウンドとして整備された。その経緯や活用方法については別項に詳しいが、私が気になっていたかつて明中塾南の庭にあり東経135度の通過位置計測機器の設置台とその事実と位置を伝える銘板は約30m東のグラウンド東北角に移設され、大切に保存されているのを確認し安心しました。

(卓)

2019年5月 同窓会のホームページがリニューアルしました



永らく親しまれてきた旧ホームページ

スマートホンでも見やすく構成



活用してください

☆住所や電話番号など、情報変更もメールフォームからおっくうな同窓会への連絡もホームページから簡単にできます

☆学年同期会開催をホームページでお手伝い

予定が決まれば同期会の開催を告知しましょう

ホームページなら同期会の盛り上がりをいち早くお届けできる

開催後には参加者の声やスナップ写真を掲載できます

☆同窓会報「自彊会だより」をディスプレイでも

思いついた時にすぐに見られます。スマホの画面でも OK!

☆同窓会の過去・現在・未来にスポットライトを当てます

母校の礎を作った先輩たちから、来たる創立 100 周年まで

新しいホームページはこちらのアドレスから

<https://dousoukai.site/meikou-jikyukai/>

またはスマホから右の QR コードを読み込んでください





発行：県立明石中学校
県立明石高等学校
同窓会（自彊会）
明石市荷山町1744番地
078 (913) 6554
印刷：（有）木下ブンセイ出版印刷